

# 中小企業共通EDI標準ver.4.2 バージョンアップ要点

特定非営利活動法人  
ITコーディネータ協会  
つなぐIT推進委員会  
共通EDI標準部会

# 標準ver.4.2バージョンアップの要点

- 標準ver.4.2バージョンアップの前提
  1. 2023/10施行の「インボイス制度」への対応
  2. 国が推進する「ウラノス・エコシステム」への対応を考慮

(注) 「ウラノス・エコシステム」とは業界を超えた取引データ連携基盤

- Ouranos Ecosystem (ウラノス・エコシステム)
  - [https://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/digital\\_architecture/ouranos.html](https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/digital_architecture/ouranos.html)
- 「中小企業の受発注デジタル化推進方策に関する調査」 (中小企業庁：2021年度事業)
  - <https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/gijut/digitalization/index.html>
  - [https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/gijut/digitalization/download/report\\_r3.pdf](https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/gijut/digitalization/download/report_r3.pdf)

# インボイス制度への対応

# インボイス制度への対応の要点

- 中小企業共通EDI標準インボイス仕様編を取り纏め
  - ① 適格請求書等保存方式（インボイス制度）に対応
    - インボイス制度の「法的必須」要件の組み込み
    - 国税庁Q&Aの記載内容にも対応
  - ② デジタル庁が採用したJP-PINTとのデータ連携を考慮
  - ③ 日本の商習慣に対応する民民取引インボイス仕様
    - すべての電子インボイスの業界を超えた民民連携を目指す
  - ④ 多様なユーザーニーズ対応の複数インボイス仕様
    - ニーズ区分1：小規模企業ニーズ対応の簡易インボイス
    - ニーズ区分2：JP-PINT対応も考慮した汎用型インボイス
    - ニーズ区分3：請求レス方式などの大企業の高度なニーズに対応するハイスペックインボイス
  - ⑤ 既存業務アプリへの対応
    - 大きな改造なしでインボイス制度に対応するコンパクトな「中小共通コア」インボイス仕様を提供
      - CSVで民民インボイス連携の実現が目標

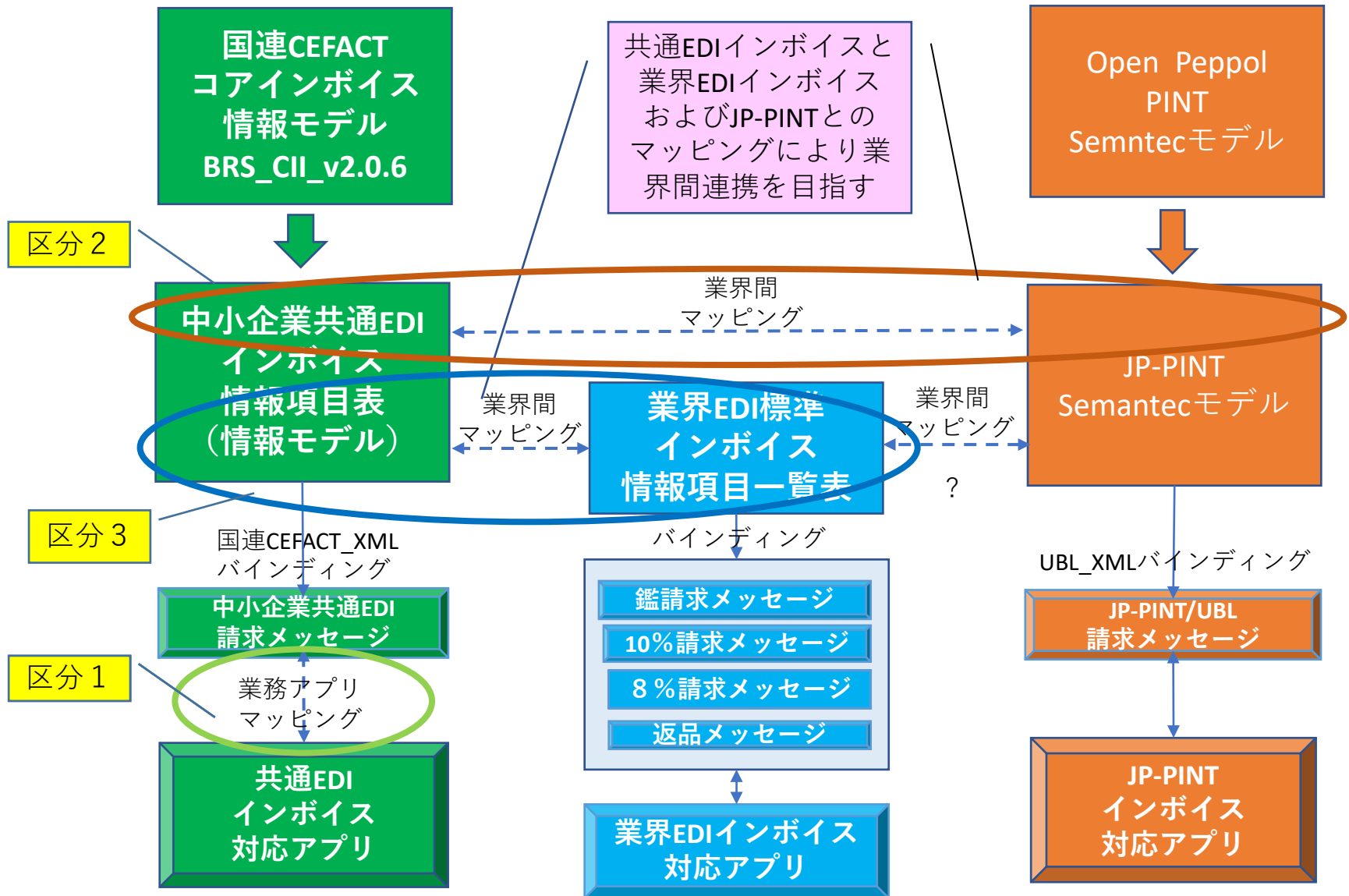
# 電子インボイスのニーズ区分

- 電子インボイスへのニーズ
  - 電子インボイスに対するユーザーのニーズは多様
  - ニーズ毎に対応する業務アプリも多様
  - 多様なニーズを一つのITツールでは対応できない
- インボイス電子化のニーズ区分
  - ユーザーニーズは企業規模・目的を考慮して区分

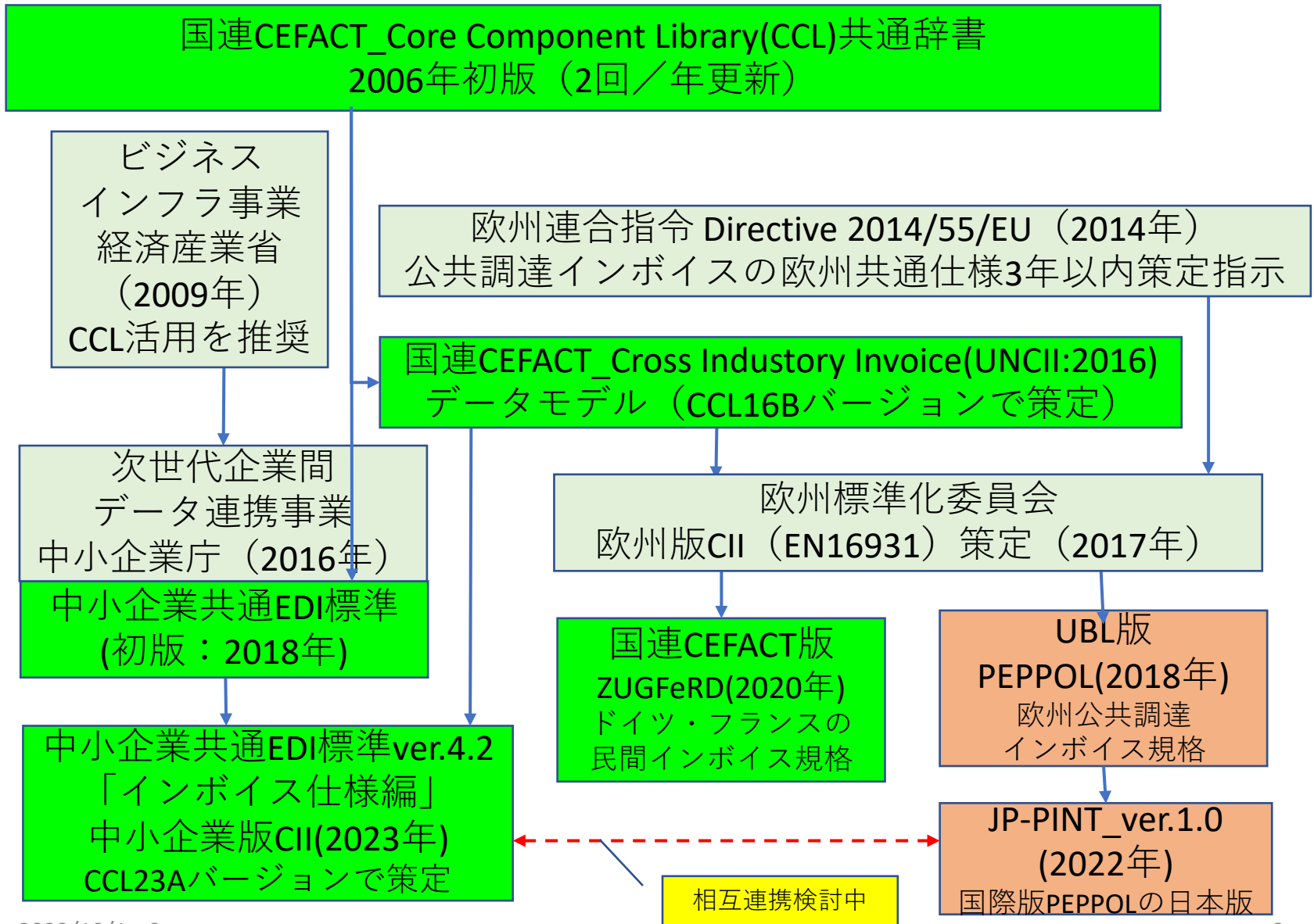
区分	ユーザーニーズ	対象となるITツール	対象企業
区分1	・ 民民取引の電子インボイス移行を 負担極小で実現	・ CSV連携パッケージ業務アプリ ・ クラウド請求サービス	小規模企業 中小企業
区分2	・ 多様なすべての取引先との電子イ ンボイス交換	・ 汎用パッケージ業務アプリ ・ 業界パッケージ業務アプリ ・ JP-PINTアプリとの連携	中小企業 中堅企業
区分3	・ 決済業務の人手作業排除実現 ・ 請求レス方式のインボイス化	・ 大企業ERP ・ 大企業請求レス方式	中堅企業 大企業

- インボイス仕様の実装
  - ニーズ区分別インボイス・メッセージを実装する

# 電子インボイスの業界を超える相互連携



# デジタルインボイスの国際標準



# 日本取引商習慣への対応

区分	日本取引商習慣	対応方法
1/2/3	月締め決済への対応	合算請求書の導入
1/2/3	税抜き・税込み会計への対応	税抜き・税込み識別キーの導入
1/2/3	違算ユースケースへの対応	違算対応情報項目の導入
1/2/3	区分記載請求書への対応	免税事業者とのEDI連携が可能
1/2/3	複数帳票の組合せに対応	補完納品書を定義して導入
2/3	誤り修正差額方式へ対応	調整ユースケース情報項目を導入
2/3	適格請求書以外の決済文書対応	文書コードの選択で利用可能とした
2/3	請求書等の自動消込	自動消込キー情報項目を組み込み
3	請求レス方式への対応	仕入明細メッセージによる対応
3	仕入明細確認回答のエビデンス	仕入明細回答メッセージの導入
3	多様な取引ユースケースへ対応	請求者、請求先、支払者の組込み
3	請求と相殺の併記文書への対応	複数文書に対応する3階層統合メッセージの導入で対応
3	大手税率別メッセージへの対応	
3	大手業界鏡メッセージへの対応	



# インボイス仕様の提供機能 1

- インボイス仕様の区分ごとに提供する機能一覧を示す

提供機能	「区分1」 インボイス仕様	「区分2」 インボイス仕様	「区分3」 インボイス仕様	(参考) JP-PINT v1.0
文書タイプ指定	①	○	○	○
都度請求書	○	○	○	○
合算請求書パターン1	○	○	○	○
合算請求書パターン2	×	○	○	○
合算請求書パターン3	×	○	○	?
ヘッダ返金	×	○	○	○
ヘッダ追加請求	×	○	○	◎
外貨建て請求書	×	○	○	○
通貨識別	×	○	○	○
為替情報	×	○	○	×
修正適格請求書	×	○	○	○
区分記載請求書	○	○	○	?
調整(修正差額)ユースケース	×	○	○	×
違算ユースケース	○	○	○	×
前払ユースケース	×	○	○	○
税込み会計	○	○	○	×
ヘッダ文書参照	×	○	○	○
ファイル添付	×	○	○	○
プロジェクト管理	×	○	○	○

① 指定機能実装しない場合は合算請求書パターン1対応

# インボイス仕様の提供機能 2

提供機能	「区分1」 インボイス仕様	「区分2」 インボイス仕様	「区分3」 インボイス仕様	(参考) JP-PINT v1.0
受注者	○	○	○	○
発注者	○	○	○	○
請求者	×	○	○	×
請求先	×	×	○	×
支払人	×	×	○	×
支払先	×	×	○	○
納入先	×	○	○	○
金融機関情報	○	○	○	○
支払手段	×	○	○	○
支払条件	×	○	○	○
納品書明細行参照	×	○	○	○
契約書明細行参照	×	○	○	○
注文書明細行参照	×	○	○	○
受注書明細行参照	×	○	○	○
明細行請求金額	○	○	○	○
明細行返金	○	○	○	○
請求数量	○	○	○	○
数量単位指定	②	○	○	○
請求品目	○	○	○	○

- ②指定機能実装しない場合は「定賞品目」のみ対応

# インボイス仕様の提供機能 3

提供機能	「区分1」 インボイス仕様	「区分2」 インボイス仕様	「区分3」 インボイス仕様	(参考) JP-PINT v1.0
鏡ヘッダ情報	×	×	○	
複数インボイス統合	×	×	○	
請求レスユースケース	×	×	○	
統合仕入明細書	×	×	○	
仕入明細回答情報	×	×	○	
明細行自動突合キー情報	×	×	○	

# 標準ver.4.2改定の要点

# 共通EDI標準ver.4.2の全体像



# 標準ver.4.2全体の改定の要点

## • 標準ver.4.2全体の改定ポイント

### ① 「中小共通コア」と「中小業界共通コア」への構造化

→中小業界固有仕様を識別して組み合わせ利用できる構成。

業界を超えたデータ連携への対応の容易化

→国が推進する「ウラノス・エコシステム」への対応を考慮

### ② コード表の国際標準への対応

→「JP-PINT」が規定する国際コード標準への対応を考慮

→各業界固有コード表とマッピングして連携できる日本版共通  
コード表を考慮

### ③ 数量の定義と運用の拡張

→業界ごとに異なる数量運用手順に対応

→数えられる品目（定貫品目）と数えられない品目（不定貫品目）を扱えるように拡張

### ④ XMLバイディング要件の標準仕様書への組み込み

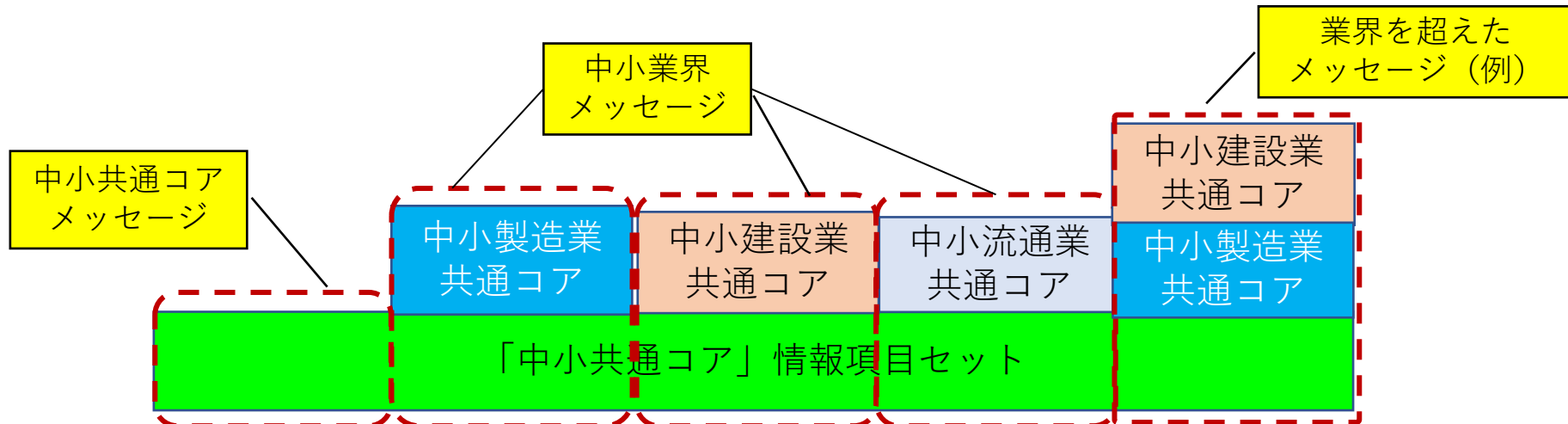
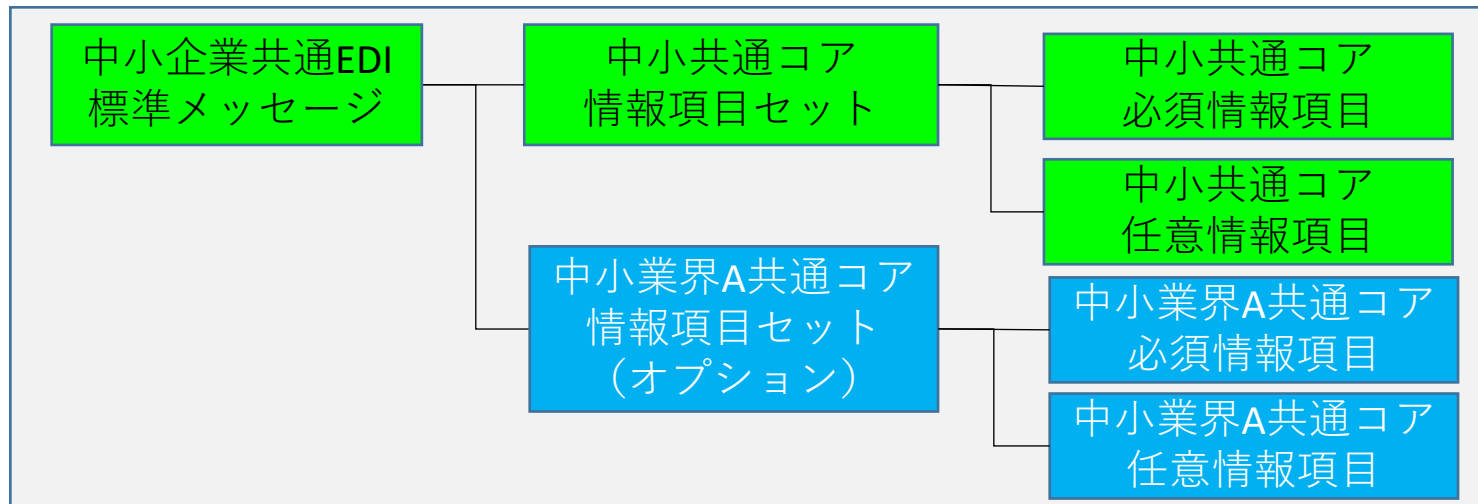
→<付属書>XML実装ガイドラインを策定

→業務アプリと共通EDIプロバイダ間XML連携仕様の明文化

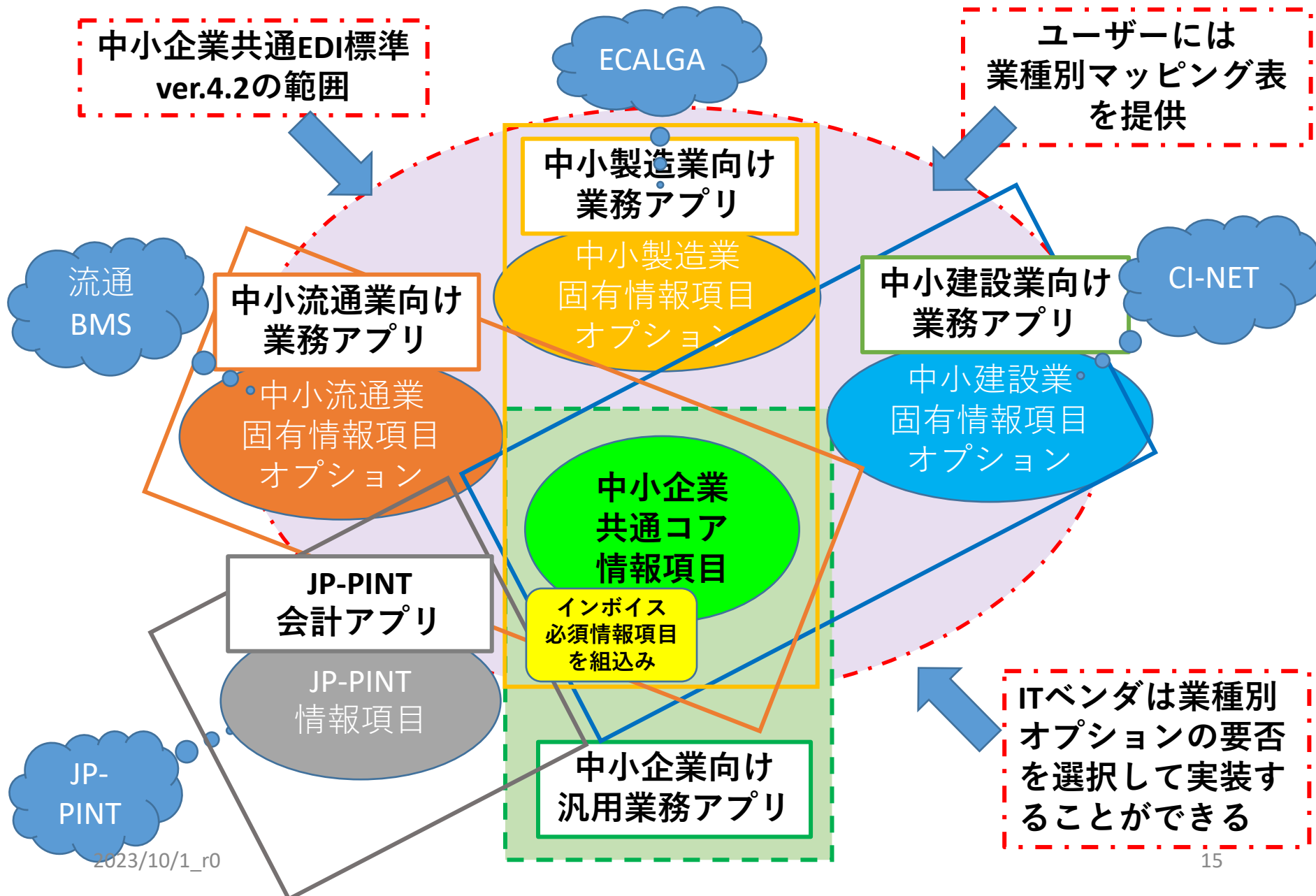
→XML組込PDFフォーマットへの対応

# 業界を超えるEDIデータ規格

- 共通EDIは「ウラノス・エコシステム」に対応するため標準ver.3の「任意」情報項目を構造化。標準ver.4.2では「中小共通コア」と「中小業界共通コア」へ再構成
- 「中小共通コア」は原則として固定化し、変更しない



# 中小企業共通EDI標準ver.4.2の構成





# 共通EDIコード定義表の策定方針

- 国際標準への対応
  - 業界を超えたインボイス交換実現には業界コード表の業界間マッピングが必要
  - JP-PINTが規定する国際標準コード表への対応が必要  
→これらを考慮し、国際標準コード準拠の「共通EDIコード定義表」を策定することとした

- 国際コードの課題
  - 国際コードは膨大なコード定義があり、このままでは利用できない
  - 日本固有の商取引に対応するコード定義がない



- 国際コードのサブセット版コード定義表を策定
  - 「国際サブセット定義表」の策定  
→日本国内取引に利用するコード定義を抽出してサブセット化
- 国内取引対応のコード定義を策定
  - 国内取引で汎用的に利用される「共通コード定義表」の策定  
→国際コードで定義されていないコードについて、日本国内取引に利用する共通コード定義表を策定